

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501845		
法人名	有限会社ユアスタッフ		
事業所名	グループホームもいわの里 石山館 たのし荘		
所在地	札幌市南区石山3条7丁目3番12号		
自己評価作成日	平成22年8月21日	評価結果市町村受理日	平成22年10月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501845&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①職員の介護技術向上の取り組み
全社的な取り組みとして年4回実施の勉強会「わいわい演習塾」の実施、介護資格取得及び介護スキルアップに向けた自己向上計画の立案と自己評価を繰り返し個人目標を明確にし、実践する。人事考課制度、報酬体系を実現しおり、成果として、全職員に占める介護福祉士の割合は1/2以上を上回っている。
- ②利用者への個別最適サービス向上プラン(「パーソン・センタード・ケア」)の実践
利用者主体の日常生活、GOL・ADL向上を目指したアクティビティを展開。
- ③地域との連携
運営推進会議のメンバーの働きかけにより、地域との交流の輪が一步ずつ広がっている。22年度の文化の日記念行事「ふれあいフェスタ」「ふれあいウイーク」の実施、町内会ボランティアの協力による生活レクの実施、消防訓練に地域住民が参加等々。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた郊外の閑静な住宅地の一角に開設5年目に移転新築して1年半を経過した、明るく清潔で開放感があり、入居者の安心と安全を考慮したオール電化設備・バリアフリーの事業所である。運営者・職員は「人格・人間性の尊重、地域と連携した潤いある暮らし」という理念の具現化と実践を目指し、利用者本位で上質なケアサービス・地域の一員としての継続した暮らしの実現に取り組んでいる。運営者は職員が常に向上心を持ち学ぶことを重要視し、研修参加や資格取得を薦め、職員の資質向上を図っている。運営者・管理者・職員のコミュニケーションが良く、気楽に話し合える職場環境が事業所運営に反映され、ケアサービスの質の向上に繋がっている。利用者は職員と献立・調理・後片付け等を力に応じて行い、自ら作って食べることの喜び・楽しみを実感し、行楽行事や日々の散歩等で季節感を味わい、個々のペースでゆっくりと落ち着いた暮らしが出来ている。代表者は常に事業所運営に直接関わり、管理者・職員と話し合いながら協働してケアサービスの向上に熱意を持って取り組んでおり、地域密着型サービス実践の事業所として期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念が居間に掲示されている。職員のネームプレートにも理念が明記され、日々確認している。	開設時の理念を基本に、地域密着型サービスを目指した事業所独自の理念に作り変え、日々の申し送り・唱和などを通じて共有を図り、理念を具現化したサービスの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧版の行事案内を通して地域行事に参加している、地元の人との交流に務めている。運営推進会議を中心情報発信している。(石山夏祭り、春の掃除等)	移転後1年半ではあるが、町内会行事への積極的参加や事業所行事へのお誘い、認知症講座での講師等、利用者が地域と連携して暮らし続ける為に、双方向的交流を実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やインフォーマルによる行事の際、「介護保険」「認知症」等について理解が深められるようにお話をしている。運営推進会議を中心に情報発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎実施の推進会議の声を、管理者会議の場を通してサービスの中に生かしている。	家族・地域住民・行政・運営者・職員等の参加で2か月毎に実施され、事業所での暮らし振りや評価結果を報告し、サービス向上・課題改善への意見・要望・助言や地域における防災等の協力体制作りを話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム管理者連絡会議・地区連絡会議への参加を通してサービスの中に生かしている。	区主催の管理者連絡会やケアプラン研修会に参加し、市の担当者や同業者等とも連携を深め、情報提供や相談を通じて協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等を通して身体拘束に関する知識等を深め、自由な行動を制限しないケアの実践について、職員間で共通認識として周知徹底している。「身体拘束をしないケアの実践」について「身体拘束廃止委員会実施要領」に明記している。	管理者を講師とした「身体拘束廃止委員会」を定期開催している。身体拘束の弊害等を認識し、利用者の自由な暮らしと安全を確保するケアサービスを全職員で検討し実現に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待に関する研修会」等に参加し法令並びに防止について学び発生防止に努めている。身体拘束廃止委員会(全体会議)を定期的に開催している。		

グループホームもいわの里 石山館(たのし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、虐待に関する学ぶ機会を設けている。「グループホームの倫理」を居間に掲示し日常的に遵守している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関する際は文書にて懇切丁寧に十分説明し理解納得を図っている。解約に際しては、至るプロセスを精査し、利用者・家族が希望する最良の選択が出来るよう支援する体制がある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常コミュニケーション場を通し皆さんの意見吸収に努めている。ミーティング等の場を通し共有化し運営に反映させている。日常的には、連絡ノート等に記入し反映できる体制になっている。	毎年家族アンケートを実施し、結果を基に検討会議を開いてサービス向上に反映させている。家族会があり、来訪時には話し易い関係作りが出来ている。苦情相談窓口は契約書等に記載され妥当に対処されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	肩肘を張らずに、運営に関する職員の意見や提案を聞く面談対話等の機会を設定している、そして反映されている。	運営者・管理者は、ユニット会議やミーティング等で職員の意見が出やすい体制を作り、運営やサービス向上に活かしている。日常的な話し合いの中でも職員の提案や要望を聞き、意欲向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	心のケアの自己診断等を実施している。面談、親睦会等設定し心身のストレス緩和に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人別の課題を設定し、スキルアップに努めている。年度中頃には面談等実施してスキルアップについて話し合いをしている。定期的に勉強会の機会を設定している。日常的にはOJT手法をもって即時対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の各種連絡会議を始め業務を通して可能な限り参加し交流を深めている。		

グループホームもいわの里 石山館(たのし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	役割分担をし、本人の思いを考慮し信頼関係作り心掛けている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと等傾聴し受容する体制にある。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の場合は、あらゆる可能性を精査して、ポジティブな検討し判断している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の経験してきたことや得意とする場面では、日常的に助言をしてもらっている(園芸・調理・行事の作品制作・しきたり・作法等)			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	バーベキュー会・誕生会・敬老会・家族会の行事や、散歩外出等交流の機会を設定している。参加出来ない時、電話等を活用し関わりを持っている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人の来訪や電話など交流の機会があり、一人ではないという安心感を得ながら暮らしている。手紙を書く支援を実施している。	利用者のそれまでの暮らしの継続を支援する為に、知人、友人等の来訪を歓迎し、懐かしい場所への訪問をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの得意分野や持てる力により、役割が自然に発生している。持っている力が発揮出来る場面作り、関係作りをしている。メニュー書き・日捲りカレンダーめくり・新聞広告整理等がある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族に希望があれば関連情報伝達や関連機関との連携できる体制にある。時々電話や来訪がありホームの様子や昔の思い出を話し、思い出で居られます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心身共に自由な暮らしが出来るように、日常的に意向を把握し配慮している。	生活歴やアセスメント記録、日々の会話や行動・表情からも本人の希望や思いを把握する事に努め、その人らしい暮らしとなるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	遅くまでテレビを見たい人、ソファに寝転がりたいたい人、日溜まり場所で寛ぎたい等それぞれの暮らしぶりを尊重し大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことを支援し出来ることを把握し自身に繋がるよう心掛けている。喜怒哀楽の表出感情豊かに毎日を過ごしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個々の変化に、より深いアセスメントを行う事により、利用者最優先の介護計画を作成している。	担当制を活用し、毎月のモニタリング・ユニット会議や日々の申し送り等で情報を共有して課題解決を図り、3カ月毎の見直しと、状況の変化や本人・家族の意見を反映した計画作成に取り組んでいる	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の暮らしの様子や言動、介護記録等により正確に記録し介護計画に生かしている。あわせて家族様との関係については、「介護支援経過」を作成し要望等支援の経過を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望には最大限応えられるよう体制は整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会役員による、地域ボランティア紹介で、管楽器や三味線の演奏・舞踊会等を企画し皆さんに楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週、掛かり付け医による往診体制をとっている。24時間の緊急時対応の訪問看護を提携先の医療機関と契約している。	本人・家族の希望するかかりつけ医受診とし、協力医療機関の看護師による24時間対応の体制が出来ている。通院介助は家族が原則ではあるが、困難な場合は支援している。	

グループホームもいわの里 石山館(たのし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜、提携先の医療機関 看護師による医療連携体制をとっている。日常の生活様子や気掛かりな症状などについて報告し日常の健康管理や往診に生かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、治療内容の説明と見通しについて、医師との連携をとり、ホームへの生活復帰を最優先させている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化方針によって同意書が交わされている。方針共有化している。	入居契約時に「重度化指針」により口頭で説明し、対応方針の共有を図って同意を得ている。状態の変化や対応出来得る支援について都度話し合いを行い、終末期ケアを実践している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から利用者個別に急変の可能性を把握し、対策を構っている。又、突発的な事故防止に備え「ひやりハット」の分析、防止策を構じ、職員の連携を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策「指図書」「指導書」を作成し、万が一に備え日頃シュミレーションを実施している。又、町内会・消防署の協力の下「火災避難訓練」を実施している。	消火設備が完備され、年2回の避難訓練は、昼夜想定で行い、地域住民に告知して協力も得ている。災害対策の指導書・指図書を作成し、シュミレーションや事例検討会を行っている。食料・飲料水等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム理念にある基本姿勢をケアに反映させ、尊厳を守る対応を重視している。個人情報取り扱いマニュアルを遵守しプライバシーが守られている。	個人情報に関するマニュアル作成や学習会を実施し、事業所理念である「人格尊重」の実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃、分かり易く、具体的な話方に努めている。短く、はっきりと、優しく、具体的に馴染みのある言葉で説明し、自然なかたちで発揮暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが束縛のない、心身共に自由な暮らしが出来るよう自己決定を優先している。その人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの希望、TPOに合った身だしなみ支援を大切にしている。		

グループホームもいわの里 石山館(たのし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食事を作る楽しみ」「食べる楽しみ」を皆さんに感じとって頂けるよう努めている。野菜切り・味付け・盛り付け等その人の力に合わせて参加していただいている。	利用者は職員と共に献立・下ごしらえ・味付け・下膳・食器洗い等を個々の力に応じて行い、利用者の嗜好・カロリー・健康状態に配慮し、和やかに食卓を囲んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量は「水分チェック表」に食事摂取量 カロリーは「週間メニュー表」「温度板」「介護記録」「定期的な血液検査」等で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	毎食後、歯磨き・入れ歯洗浄を実施している。合わせて洗口腔液や舌ブラシも利用し、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や様子の見守りにより、サインを見逃さないように過剰にならないように注意し、誘導自立支援を行っている。	トイレでの排泄を目標とし、習慣やパターンの把握・オムツ使用者のトイレ誘導・使いやすいトイレの工夫等で利用者全員の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防対策として食事は繊維質の多い食材に心掛けている。又「棒体操」等では便秘対策、運動動作を取り入れている。可能な限り自然排便に繋がるよう対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り、希望の時間帯にゆったりと入浴できるように調整している。持病を考慮し、本人に適した温度、入浴方法を把握している。	夜間以外は希望に沿って対応している。入浴日には1名増のローテーションとし、個別の湯温・入浴方法など体調・習慣を考慮し、安全でゆっくりと寛いだ入浴となるように支援している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠データを生活パターン作りの参考にし、安心と安眠が得られるように、午前と午後の食後、穏やかに過ごすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更等は口頭・受診結果報告書・連絡帳・介護記録等で重層的に確認が出来る。服薬時は名前・服薬時期(朝・昼・夜・夜)を読み上げ、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内での出番や楽しみが見出せるよう(テレビ・ラジオ・CD・DVD・週刊誌・植物水遣り・食器洗い・掃除・衣類畳み・広告折畳み等)場面作りの支援をしている。		

グループホームもいわの里 石山館(たのし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、積極的に車椅子などで散歩・散策に出掛ける機会をつくり外出の支援をしている。	毎月の外出行事の他、気晴らしや健康維持のためにも、日々の散歩・買い物・ドライブ等に出かけている。恵まれた自然環境を利用して本人本位の外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族で話し合いながら力量に応じて対応している。買物の場面では、利用者自ら支払いをする機会をつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	折にふれ、絵手紙等の通信支援を行っている。電話はプライバシーに配慮し、居室でゆったり会話ができるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に刺激を与えないように穏やか会話に心掛けている。テレビやCDの音量に配慮し調整、レースのカーテンで直射日光を遮っている。ホームはとても緑豊かな静かな環境にめぐまれている。散歩で摘んだ草花を飾ったりしている。居間には利用者さんの作品を掲示している	広々と明るい居間はソファと食卓がゆったりと配置され、個々に寛いで過ごす事ができる。鉢植えや季節の花を生け、手作り品やスナップ写真を飾り生活観のある居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間から離れて一人の時間を楽しんだり、気の合った同志で過ごしたり、スタッフとのコミュニケーションの場所を確保している。ソファのある場所、日溜り場所、植物のある場所。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には表札が掛けられ混乱しないよう対策がされている。居室は慣れ親しんだ家具が置かれている。又、利用者が作成した絵や折り紙等が置かれ季節感や家庭的温もりを感じる居室となっている。	使い慣れた身の回り品や家具類・仏壇などを持ち込み、家族の写真や趣味の作品などを飾り、その人らしく自由に過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脱衣場・浴場のバリアフリー化。歩行・便座手摺りの取り付け、車椅子対応洗面台の設置、トイレの道標表示、夜間共用場所の照明等身体機能状態に応じた環境作りをしている。整備に取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	170501845		
法人名	有限会社ユアスタッフ		
事業所名	グループホームもいわの里 石山館 うれし荘		
所在地	札幌市南区石山3条7丁目3番12号		
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①ケアプランの作成・・・ケアマネとの協働で全スタッフが関わり「その人らしさ・尊厳の支え」「認知症」「健康」「自立支援」「地域社会との関わり」「季節感」等の六項目を網羅し、利用者を総合的な観点から捉えたサービス計画を作成している。</p> <p>②職員の介護技術向上へ向けた取り組み・・・全社的な取り組みとして、「わいわい演習塾」(社内勉強会)、介護資格取得に向けた自己向上の努力と成果に対し報酬規程、人事考課制度で評価する仕組みがある。</p> <p>③アクティビティの取り組みとADL、認知力の維持向上を目指す活動・・・1日3回実施。下肢・嚥下機能強化のための各種訓練(10分程度)、遊び感覚を取り入れた認知力を養うゲームの実施、手法研究等。</p> <p>④地域との連携・・・運営推進会議の構成委員からの働きかけにより、地域との交流の輪が拡大。地域ボランティアの受入、消防避難訓練実施時は、地域の住民も参加等。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の具現化を施設内研修・勉強会で行い、理念を振り返る機会を多く設定している。具体的なケアの方向性を定期的に確認・周知し、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の高齢者の集いに出席して、認知症講座を引き受け、認知症について話をする機会を持っている。地域との共存の大切さについての理解につなげている。地域行事に積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護技術や認知症・介護保険等についての相談に応じたり、地域の高齢者が特技を生かすことができる場所の提供、共に楽しめる企画を立て、地域貢献につながるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「生活リポート」で、ホームの運営や取り組みの現状報告をしている。毎回テーマを定め、家族・地域の方・包括支援センター等、多方面からの意見や要望を求め、話し合える場を作りサービスの質の向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・地区の管理者連絡会・地区のケアプラン研修会・地区のケアマネ連絡会の研修等、事例検討や相談・協力・連携が整い、更なるサービスの質の向上に向けての取り組みがなされている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、全職員を対象とした「身体拘束廃止委員会」を開催している。「本人の自由な行動を制限」という定義と「切迫性」「非代替性」「一時性」を具体化し、身体拘束の弊害について学び、理解につなげ意識付けしている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームの倫理規定要領に基づいて遵守している。高齢者虐待防止関連法についての勉強会を定期的に開催し、ホーム内においても「絶対に起こさない・見逃さない」という意識を高め実践している。		

グループホームもいわの里 石山館(うれし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の研修会や講演会などに参加し、全体会議で報告を行っている。研修委員会主催の勉強会を開催し、全職員が学びを得る機会や活用への支援体制は整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・契約書を分かりやすく提示するとともに、不安や疑問点等には十分な説明を行い、理解・納得・同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決制度について重要事項説明書に明記し、説明をしている。意見や不満が聴けるように心がけ、申し出には、管理者に即日伝達し対応、職員が共有化している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や面談、日々のコミュニケーションの場面で、運営に関する話題づくりを心がけ、日常的に意見・提案をくみ上げて事業所の向上につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ストレス自己診断表を配布し、メンタル協会認定スペシャリストやスーパーバイザーの面談・コーチングを行っている。親睦会や日常的に良質なコミュニケーションで、心身のストレス緩和やストレスにならないような環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象に段階に応じた外部研修を受講する機会を確保している。施設で6つの委員会があり、ホームの運営がスムーズに行われ、モチベーションの向上につながっている。毎月テーマを決め、各々の委員会や個人が主導となる勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者連絡会・介護支援専門員研修会・交流会・ホームの見学交流を通し、全職員が対象となるネットワーク作りや勉強会等で、スキルアップを目指している。		

グループホームもいわの里 石山館(うれし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活上の困りごと、様々な不安や要望を本人から伝えやすいように、傾聴や受容的姿勢を心がけ、潜在的な感情の理解や信頼関係の構築につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	愁訴・要望を、傾聴や受容的姿勢で家族の本人に対する思いを受け止め、理解することを心がけている。レスパイトケアや家族支援につなげていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談から利用までの過程で、十分な情報収集を行い、現状や背景など視点を拡大したアセスメントを行い、潜在化している事柄を含め本人らしい支援の必要性を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の経験や知恵から学びを得る姿勢で、ホーム理念である「高齢者を人生の先輩として敬う」を実践し、認め合い支えあう関係作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者の良質な関係が継続されるように、ホーム来訪時には、家族にはケアの一員として、職員は家族の一員としての協同意識をもった場面作りを心がけている。面会が少ない方には、定期的に電話や手紙などで近況を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・友人等の来訪を心から歓迎し、関係の継続を支援している。希望者には、可能な限り、懐かしき場所の訪問を援助する体制がある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	和やかに協働できるアクティビティの時間を多く設け、その時・その場に合った利用者同士の関わりを見極め、孤独感を味わうことのない対応を心がけている。		

グループホームもいわの里 石山館(うれし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、希望に応じ、可能な情報提供やサポートなど、バックアップに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人をより深く理解する努力と言葉にできない思いや希望を察し、受け止め、利用者本位を最優先している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める。	家族への細部に渡る聴き取りやこれまでのサービス利用の情報提供等により、馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリや生活レクリエーション、日々の暮らしぶりを通し、広い視点から総合的に現状把握し、適切な援助につなげていけるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画期間・心身の状況変化・区分変更等、サービス担当者会議を開催し、迅速に適切なサービスが受けられるように、介護計画作成の見直し、ケアの実践に十分活かされている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、サービスの実践結果、対応等、本人の情報が共有しやすい個別記録となっている。サービスの実践にはチェック項目があり、状況と達成度が把握でき、モニタリングを実施することができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が、各々の資格・得意分野・係活動を活かし、身体的(機能訓練・栄養・健康管理・生活リハビリ等)・精神的(行動心理症状・回想法・生活レクリエーション・外出等)分野の援助を実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域推進運営会議等を通し、各委員に紹介の窓口をお願いしたり、町内への回覧板やまちづくりセンターへの情報発信。またボランティアの紹介を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週毎、かかりつけ医による在宅診療があり、医師や看護師に気軽に相談できる関係になっている。日常の健康管理が安心かつスムーズに行え、24時間の緊急時対応の訪問看護の体制が整っている。		

グループホームもいわの里 石山館(うれし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回、在宅診療時や訪問看護の医療連携体制により、利用者をよく知る看護師と日常の健康管理について気軽に相談できる関係が作られている。在宅診療に向け、事前の情報提供により、往診時にはスムーズな診察が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院生活が送れるように、介護添書には本人に沿った適切な認知症ケア情報を提供している。早期退院に向け、情報交換を密にし、スムーズな医療との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針による同意書や覚書が交わされ、方針を共有化している。個別のその人らしいあり方について、関係者と繰り返し話し合いを持っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から利用者個別に急変の可能性を把握し対策を構っている。又、突発的な事故防止に備え「ひやりハット」の分析、防止策を構じ、職員の連携を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時には、協力を得られるように地域の方にも参加していただいている。活動時間帯・夜間の災害等、様々なパターンを想定し、年2回の事業所の避難訓練の他、隔月でフロア独自の災害時訓練・シュミレーション・事例検討会を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム理念にある基本姿勢をケアに反映させ、尊厳を守る対応を重視している。個人情報取り扱いマニュアルを遵守し、プライバシーが守られている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いの表出をしやすいように、時には意図的に自己決定の場面を引き出す働きかけし、ゆっくり・誠実に分かりやすく説明し、納得してから自己決定できる様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルを尊重し、心地よく毎日が過ごせるように、希望に添った生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用する場合は、望みの髪型を自ら伝えられるようにサポートしている。TPOに合った化粧支援を行っている。		

グループホームもいわの里 石山館(うれし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「作る楽しみ」「食べる喜び」を感じ取ってもらえるよう、利用者にも献立作成に関わってもらったり、利用者の力に応じて、食材の下処理やカット・味付けなど料理に関わる場面作りを日常的に実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態などにより、ミキサー食・ソフト食を採用、嗜好やアレルギー・低カロリー・嚥下力に応じた代替の個別献立も実施。水分摂取量を確保するため、バラエティーに富んだ種類の飲み物用意し提供。栄養士が配属され、カロリー計算やバランスの良い料理法・メニューの調整等が行われ豊かな食生活となる取り組みがなされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアで、口臭が軽減している。歯間ブラシや舌ブラシも使用し、自立できていない方には、さりげなく食物残渣や磨き残しの確認をしている。訪問歯科の医師や衛生士から指導を受け、口腔内の病気の予防や改善が図られている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄アセスメントを十分に実施し、パターンを把握して声かけ・誘導を行い、失敗の場数が減少するように努めている。おむつ使用者でも、便器に着座が可能ならば、日中はトイレでの排泄の習慣をつけ、快適な排泄への支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による身体的影響だけではなく、精神状態にも影響を及ぼすことを職員が理解し、排泄アセスメントを実施している。献立に繊維質の多い食品を取り入れることを心がけ、腸の働きが活発になる運動メニューを機能訓練に取り入れ、日常的に便秘予防対策に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は本人の希望に沿って設定し、身体状況・体調を見極めて安心できる入浴方法やゆったりとコミュニケーションを取りながら楽しめる入浴ができるよう心がけ、介護サービス計画に組み入れる場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の心身状況を把握し、バランスの良い休息と活動時間をさりげなくサポートしている。夕暮れ時頃より、職員の静かな振る舞いやトーンダウンを心がけ、穏やかに過ごし夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診結果は、職員に周知徹底できるよう、受診結果報告書・薬の情報シート・申し送り等で必ず目的・副作用・用法・用量の確認し、日常的に病状確認と薬の説明書に目を通すことの意識付けができています。誤薬防止の為、配薬やセッティングのチェック体制の強化、服薬の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の楽しみや役割昔とった杵柄等、力が発揮できるアクティビティメニューを設定し、張り合いがあり気晴らしにつなげられる支援をしている。		

グループホームもいわの里 石山館(うれし荘)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近郊の川に沿った遊歩道や四季の山の移り変わり、街並みの風景・色とりどりの花が咲く庭・買い物先での人の流れや車窓から見える車の流れ等、五感にふれる外出の支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物を購入する喜びや、適正な金額の買い物ができるよう、本人の力に応じた品物選びや支払いの見守りや支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	生活音が通話の邪魔にならないよう、またプライバシーが保たれ心ゆくまで電話が楽しめるよう配慮している。携帯電話所有の方は、操作・充電支援も行っている。季節ごとに手紙や電話での通信支援をサービス計画に組み入れ実践している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活動時間帯や休憩時間帯など、その場面に合わせた照明や声のトーンの配慮をしている。ガーデニングコーナーから摘んだ季節の花を食卓や窓辺に飾ったり、行事に合わせた壁飾りで季節感を感じ取ってもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と同面積の談話室で、居間の雰囲気を感じながら、気の合った利用者同士の会話やスタッフとのマンツーマンでのケアに活かされている。また地域の住宅や山の風景・人やペットの行き交う姿など窓辺からのロケーションを楽しみ、観葉植物を觀賞しながらひとりでのんびりとできる癒しのスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・仏壇・鏡台・写真・人形などに囲まれ、安心とリラックスできる場所で心地よく過ごせるように、馴染みの居場所作りを心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適所に手すりを設置し、端は出っ張りをなくして洋服の袖やあわせに引っかかることのない工夫をしている。小さな段差は極力無くし、玄関などの上がりかまちなどには、はっきりと段差をつけることにより、注意力を以って慎重な歩行ができるようにしている。玄関には、高齢者が無理なく靴を履くための高さで、折りたたみのベンチが壁に設置されている。		